

㊦ 手入れで町家を守ります

京町家には江戸時代から戦後までの長い積み重ねがあります。大きさや形、お住まいの様子もさまざまですが、京都市中心部には今でもたくさんの町家が残っています。しかし、維持管理についてはお悩みの方も多いと伺います。

- ・生活に合わせて改修したいが、町家の雰囲気を残せるだろうか…。
- ・だいぶ傷んできたので手入れをしたいのだが、どれくらい費用が掛かるか心配…。
- ・長屋建なので、自分のところだけ建てかえるのが難しい…。

そうした悩みに、少しでもお役に立てればと考えています。

瓦：雨漏りは町家の大敵。
長持ちさせるには早めの手入れが不可欠。



断熱：町家も断熱工事をすれば快適に。
↓ 改修にあわせて採光・バリアフリー工事も。



大工：繋ぎ梁を入替。 →
化粧で見せるための腕が問われる。



左官：漆喰壁の塗りなおし。
← 熟練工になるには10年かかる。



ゲンカンニワ：間取りを広く、天井を高く修繕。
材料も古色に合わせて修繕跡を隠す。↓



オモテ・ダイドコ・ザシキ：
改修跡を撤去し、ほぼ元の
状態に復元。
縦に3室連なる町家独特
の構造を残す。 ↓



火袋：天井に覆われて
いた準棟簷幕を
あらわしに。→



水廻棟・前栽：古建具にあわせて躯体を再構築。
松をはじめとした庭木も移設の
上再利用。 →



改修前の外観： ↑

復元された出格子：生活のために増築されていた
部分を元に戻す。 ←

🌀 古い建物も構造から直します

表面的なお化粧工事は簡単ですが、それでは建物は長持ちしません。
当社では、可能な限り建物の骨格からきっちり直すことをお勧めしています。

まず、新建材などで、継ぎはぎに改修された部分を全て撤去したうえで、躯体を建ったときの状態に戻します。傾いた柱は真っ直ぐに。下がった壁は元通りに。そして傷んだ柱や梁は根継や入替をします。こうしてきっちりと矯正すれば、建具の建て合せや家具の設置も簡単ですし、断熱・気密も求める水準に上げることもできます。地震のときも安心です。目に見えないところですが、引っ越してからではできない部分です。お住まいを長持ちさせるためにも、是非ご検討ください。



梁入替：蟻害のため、強度のない梁は入替。



← 根継ぎ：写真は金輪継ぎ。



揚げ前：腐朽のため沈下し
↓ た柱を元の状態に。

↑
イガミツキ：
100年近くかけて傾いた建物を
ケンドで突いて
起こす。



柱繋ぎ：柱と柱の足元を ↑
繋いで地震対策
を施す。

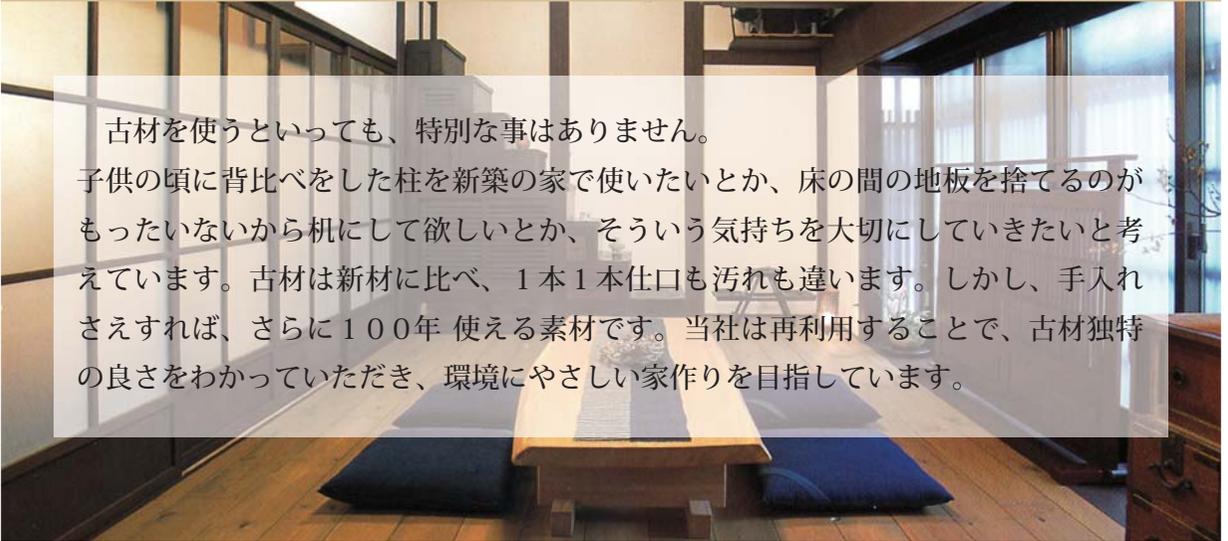


↑(上下)
基礎補強：工事後は地盤が
下がらないように補強。
一つ石も根巻き。

㊦ 古材を使った住まいも提供します

古材を使うといっても、特別な事はありません。

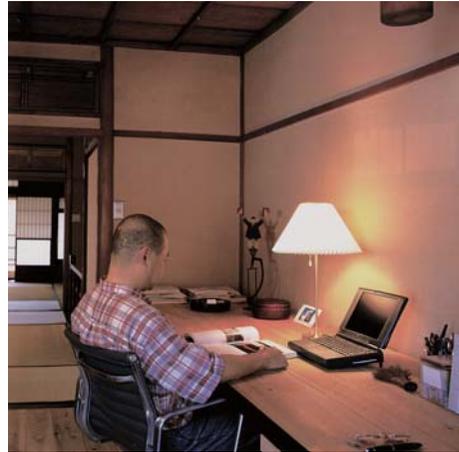
子供の頃に背比べをした柱を新築の家で使いたいとか、床の間の地板を捨てるのがもったいないから机にして欲しいとか、そういう気持ちを大切にしていきたいと考えています。古材は新材に比べ、1本1本仕口も汚れも違います。しかし、手入れさえすれば、さらに100年使える素材です。当社は再利用することで、古材独特の良さをわかっていただき、環境にやさしい家作りを目指しています。



古材を組み合わせ、『建ったときから古い家』を新築。写真に見える梁 ← 柱・建具の半分近くは新材だが、古材と違和感がないように色を合わせる。



地松梁の古材を加工し、作り付けのテーブルに。 →



150年は経っている今津の茅葺民家を京都に移築。



危ないからといって撤去した箱階段を飾り棚として再利用。